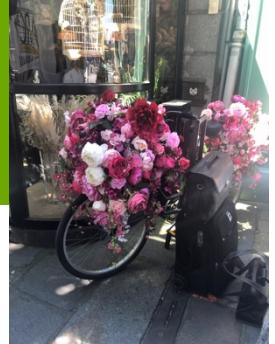


Le Rapport de Rennes Bien être



ラカニクル(la canicule)…エアコンなしの酷暑

日本はまだ梅雨明けが待ち遠しく、今年は大雨が多く、肌寒い日がつづいているようですが、こちらは酷暑にやられました。日本が暑かった6月の上旬、こちらは寒くて眠れない日が続き、それまでヒートテックやダウンを着て寒さをしのいでいました。ところが、突然の30°C越え、湿度がないとはいえ、各家庭や建物にエアコンや扇風機すらない地域なので大変。こちらの人は4月当初からノースリーブで過ごしている人もいるように、「暑がり」で寒さには対応できるけれど、暑さには弱いようです。25°Cを超えると暑いといい、テレビのCMではカニクル対策5か条が放送されていました。エアコンのない車内は35°Cを超える、陽炎(le miroitement du à la chaleur)をみてしました。日中、雨戸やシャッター、カーテン、窓を閉めておくと家の中が暖からずには済みません。日本ではエアコンなしでそんなことはできません。こちらは湿度がないためにこれは暑さをしのぐ、良い方法でした。我が家では職員室で使っていたミニ扇風機がまさかの大活躍。それでも大きな扇風機を求めて家電量販店に行くも、扇風機は1台も置いていない…入荷してものの30秒で売り切れになる状態でした。何年か前の冬、大雪が降ったときに雪かき用のスコップやスノータイヤがあつという間に売り切れたときを彷彿させました。

「ことばは態度」日本語とフランス語のちがい

IGRが招致し、授業をされたブイースー先生の著書「La leçon du Japon」「日本についての講義」は今年初めに出版されました。ブイースー先生は日本在住で親日家、長年日本を観察し続け研究されています。その中で衝撃的なことばがあります。「日本にはモラル(道徳)がない」と。日本の学校では小中学校で「道徳」が必修で、教科化することも決まっています。大妻中野の中学生は毎週水曜日の5時間目に設定されている道徳を履修しているのに、なぜ?と思うことでしょう。フランスはキリスト教の影響が強く、道徳心に反したことをしてしまったら、教会で「他人」に話し、懺悔するそうです。それに対し、日本人は「他人に言わなければ大丈夫」という1番のタブーを抱えているというのです。さらに悪いことにお金で解決するとまで…。敢えて外国に身を置いているからこそ、見えることもあるのだなと感心しきりです。

といえばブイースー先生のお話ではないのですが、こちらにいると、「ことばは態度である」と感じます。以前お話ししたフランス語のvousとtuの関係や日本語の丁寧語や尊

敬語、謙譲語、以外にもそこかしこで感じます。たとえば、日本では授業中やひとの話を聴くとき、相槌を打ったり、うなずいたり、何かしらの反応を頻繁にするのが普通です。話のコシをおったり、沈黙するのが恐ろしいのか、相槌をうたずに黙ってきいていることはまずなく、話し手が「わかった？」と訊くと、聞き手が「全然！」と答えることもしばしば。一方フランスでは、ただじっと静かに聴いているだけです。ゼスチャーや相槌を打たず、むしろ相槌をきらう人もいるくらいです。しかし、わからないことがあれば、話のコシを折るのは平気で、その場で質問します。ことばは、どうやって相手が話し終えたかのサインを出す態度であるといえるようです。

バカンスに何をしますか？

大妻中野ではあと数日で夏休みですね。フランス語の夏休みは *Les vacances d'été*、この *vacance* は空っぽの *vacant* が語源とされています。フランス人はこのバカンス中は日常生活を空っぽにするために自宅ではない場所に移動して、そこで何もしません。日本の夏休みのように、移動先で目一杯観光するようなことはありません。バカンスではないときは、バカンスで何もしないで済むようにしっかりはたらきます。こちらに来て驚いたことに、勉強や講義を受ける、庭仕事をする、そうじをする…など、少しでも努力したり、頑張ったりすることすべて、*traveiller*（しごとする）といいます。そういうこともひっくるめて、何もしないで過ごす、自分の休め方を知っている人たちのようです。

かくいう私も結局空っぽの状態にはできず、先月末からこちらで再開したトレーニングやご飯会、運転免許書き換えのための移民局からの召喚、先月の怪我の保険申請などいろいろ忙しくしています。今週で大学院の校舎が完全にロックアウトされることもあり、大学院にも顔を出したりしました。またこの2週間のうちに私が少しお手伝いをした大学間提携校交渉が、レンヌ第一大学院と日本の大学間で新たに実現し、来年度全学提携に向けて動き始め、大学院に恩返しでき、嬉しい限りです。また、トレーニング目的で地域の私設アソシエーションに入ったばかりのときに、今期の終わりをお祝いする *Fête*（お祭り）に呼んでもらったので、肉じゃがときゅうりの浅漬け、キットカットを持って参加したので、近所の知り合いがたくさんできました。またヨガやピラティス中も、フランス語が飛び交うので体の部位の名前や動かし方の動詞などの勉強になります。気になっていた *Zumba* というダンス、*Piloxing* というボクササイズとダンス、ピラティスのミックスされたトレーニングにも挑戦し、ひたすら無心になって動き続けています。フランスの学校教育では、ラジオ体操はおろか、みな同じ動きをする運動はないので、音楽からズレたり、動きが遅れたりしても何のその。入りたての私が結構まともについていくのに不思議なみなさん。体格が全然違うので私は“*une petite japonaise*”といちいちいわれてしまいますが、楽しんで通っています。そのアソシエーションも来週で3週間のバカンスに入ります。来期も始めのころは、インストラクターもそろわないのが当たり前、みんなきちんとバカンスをします。勉強や観光、家の片付け、なにもしない…の違いがあるにせよ、つまるところ、誰しもが日頃できることを長い休みの間にやろうとするだけなのでしょう。

さて、日本人の私たちは、はたしてバカンスができるのでしょうか？ *Bonne vacances!*



